

大阪市高速鐵道下地天王寺停留場建設工事

大阪市高速鐵道第三建設事務所

磯野博

概要

位置 大阪市住吉區阿部野筋一丁目
工期 着手 昭和11年9月
竣工 昭和13年3月
事業主體 大阪市
請負 株式會社 大林組
工事區間 延長260m 幅員30m

設計施工大要

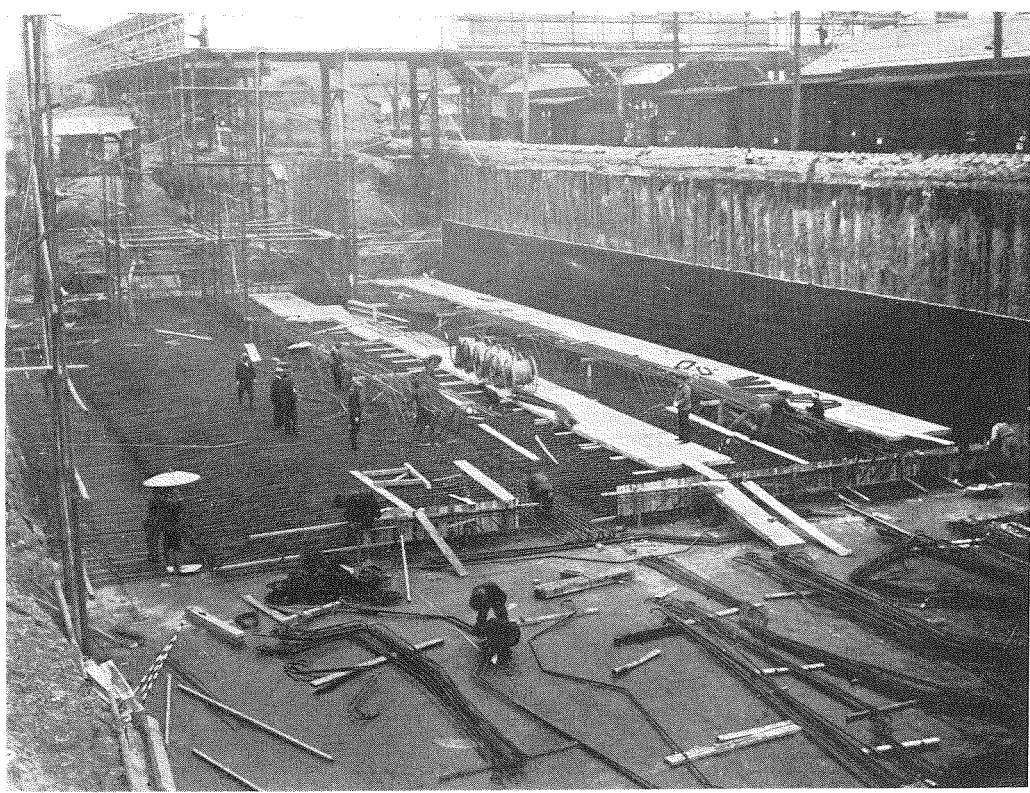
荷重 土壓及活荷重

構造 鐵筋コンクリート框形ラーメン
土留工 I型鋼 間隔1.25m使用數243本
鋼矢板 350枚 木杭177本
掘鑿 現在地盤高o.p. +18.00m掘鑿底面
o.p. +6.00m掘鑿土量 113,000m³
基礎工 砂利 厚10mコンクリート厚10cm
防水工 アスファルト 漆青布 保護層
支保工 側壓不對稱及幅員の非常に大なる事を考慮し、先づ法を残して掘鑿し土壓に對抗せしめて置き片側構築完成後支保工を既設構造に盛替へ施工す。

第1景 掘鑿

線路側は10mの鋼矢板及木杭を使用し、道路側は一時法を残して土留工とした。
地質良好で而も切梁がないので掘鑿は非常に能率が上つたが、線路に接近してゐるので慎重に施工した。



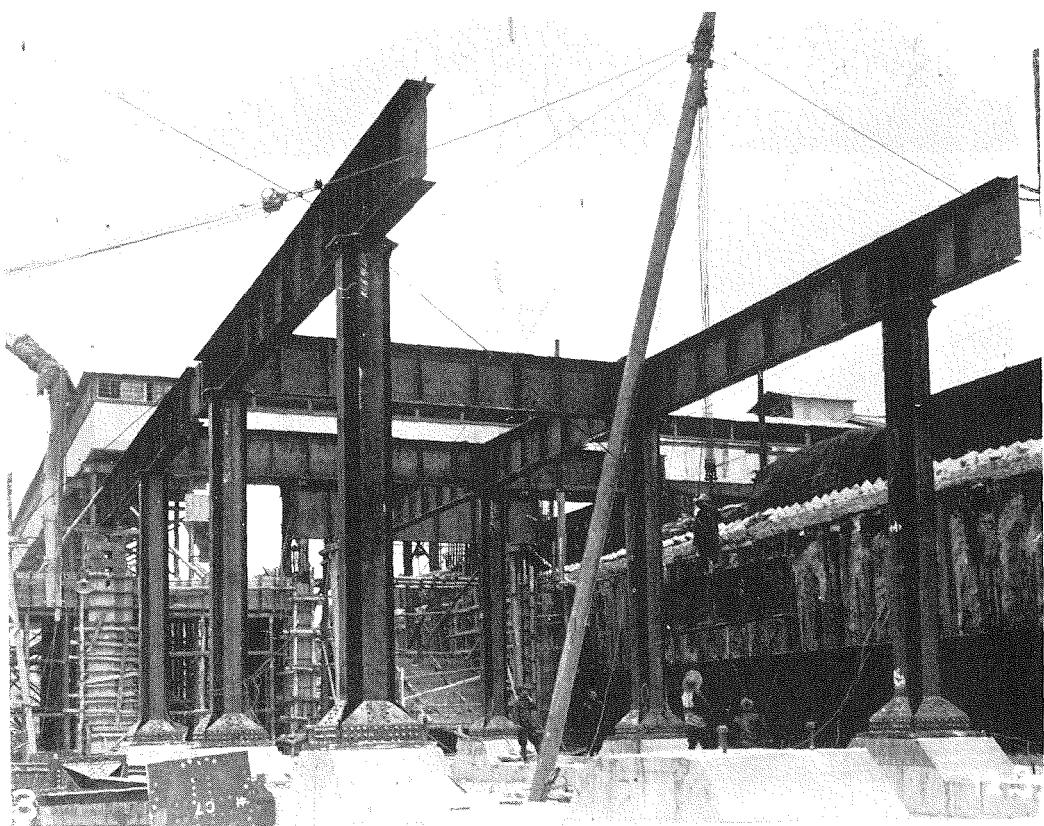


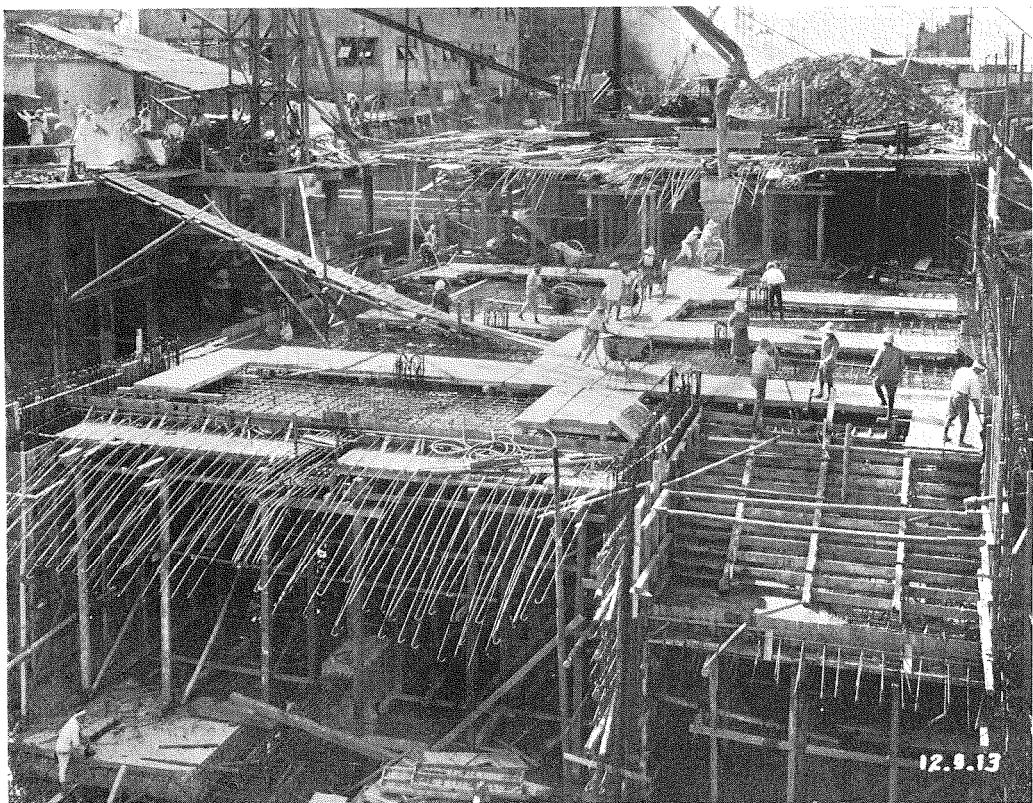
第2景 底床版鐵筋組立

施工の都合を考慮し、鐵筋は40m分一度に組んだ。直徑 主筋25mm、横筋16mmである。

第3景 鐵骨組立

柱及梁に鐵骨を使用してゐるが、木製のデリックで樂に組立てられた。





第4景 中階床版コン クリート

コンクリートは場所に応じ合理的な配合を用
ひた。

第5景 頂部防水工

構築コンクリート施工後アスファルトを塗布し其上に瀝青布を張り更に同様の操作を繰返し、コンクリートを打つて保護する。





第6景 支保工

一部構築完成を待つて支保工を施工しつゝ法
の掘鑿をする。切梁間隔 2.5m とした。

第7景 構 築

構築完成後プラットホームの施工に着手した
梁、柱は鐵骨を使用し感じを良くする様に努
めて居る。

